

春季オープン戦レポート3



2月に行われた春季キャンプでの大倉監督

わずか2安打に終わり完封負けした獨協大戦の後、選手達に「俺達は10試合中3試合に勝てる野球ではないけない。どんな相手でも10試合勝たなければ意味がないんだ」と語りかけていた大倉監督。4月5日のホンダ戦にあえて帯同せず、ひと足先に開幕した他チームの視察に向かうなど、準備に余念がない。リーグ戦への意気込みを「そりゃ優勝ですよ」と即答した新指揮官の下、新たなシーズンが始まる。

春季オープン戦レポート2

今春のオープン戦では多くの選手が起用され、投打共に試行錯誤が続いた。「東野(龍一、商4)は先発。あとは全部を決めかねている」という投手陣は当初白銀滉大(こうた)(法3)を先発で起用したものの、先月末からリリーフに。転向直後の日大戦では7回無死満塁で登板し、1点も許さず勝利投手になった。昨秋防御率1.80だったリリーフフェースの安定感はずばりで、このままリリーフでの起用になると見られる。この他、辻本宙夢(ひろむ)(政3)、保坂鷹佑(ようすけ)(現4)、白崎墨(法4)、上野翔太郎(現2)、けがから復帰した高橋由弥(経4)らが控える。

打線は1番セカンド菅野起門(たもん)(商3)、2番センター米満一聖(市4)、3番ライト酒井良樹(法3)が固定。4番の有力候補だった岡田耕太(市3)が先月末に負傷したため以降は流動的ながら、長巻成(政3)、巴山颯太郎(法3)らが順当にスタメンに名を連ねることが予想される。

一方、新たにスタメンの座を掴みそうなのが青木健太(経4)と小西慶治(市1)だ。昨年は2試合のみの出場だった青木はオープン戦も控えからのスタートだったが、しぶといバッティングと、複数ポジションをこなす守備で猛アピール。スタメン出場した慶大戦では3打席でシングルヒット、ツーベース、スリーベースを放ち4打点と爆発した。「僕はどちらかというとシスをしない選手を使いたい」という監督から高く評価されており、シヨートでの起用が濃厚だ。

昨年春・夏の甲子園を経験した小西は豪快なバッティングを武器に4番でも起用されるなど活躍。指揮官も「今持っているものを思いきり出してほしい」と期待し、サードかファーストでの起用になりそうだ。